

平成 26 年
第 4 回町議会定例会

行政報告

(平成26年11月28日)

幕別町長 岡田 和夫

平成26年第4回町議会定例会が開催されるにあたり、この1年間、町政各般にわたり、議員のみなさんから賜りました温かいご指導とご協力に対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

平成26年も残すところ、あと、ひと月あまりとなりました。

今年は、大きな災害や事故もなく、農業生産も平年以上の収量が見込まれ、また、厳しい財政状況ではありましたが、おかげさまで計画させていただきました各種施策や事業等につきましても、議会をはじめ、町民のみなさんのご理解とご協力をいただきながら、順調に進められたものと考えております。

ここに、改めて感謝を申し上げますとともに、引き続き、残された行政課題の解決に努めてまいりますので、議員のみなさんには、今後とも一層のご高配を賜りますようお願いを申し上げます。

以下、当面する行政の執行につきまして、ご報告をさせていただきます。

(新年度予算編成)

はじめに、新年度予算編成の取組について申し上げます。

国の予算編成においては、平成26年度に引き続き、民需主導の経済成長と財政健全化の双方の目標を達成するため、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化するとし、特に人口減少対策や地域活性化など「地方創生」に係る予算を中心とした特別枠「新しい日本のための優先課題推進枠」が焦点となっております。

こうした中でまとめられた総務省による地方財政収支の仮試算においては、地方税や地方交付税などの一般財源総額は、前年度の水準を確保できるものと見込まれておりますが、地方交付税に関しましては、出口ベースで前年度対比5.0%の減となっており、地方交付税に依存する割合の高い本町にとっては、非常に厳しい状況になるものと考えております。

そのような中、安倍首相は景気減速の懸念が強まったことを踏まえ、来年10月の消費税率の再引上げを見送り、衆議院の解散に踏み切ったところであります。

こうした背景の下、町の新年度予算の編成作業については、来年4月に統一地方選挙が予定されておりますことから、骨格予算を編成いたしますが、現行の政策・制度に基づき、各担当からの予算要求原案を取りまとめている段階にあります。

しかしながら、先ほど申し上げましたとおり、衆議院の解散に伴い、国の予算や地方財政計画、税制改正など極めて不透明な状況にあるため、一層の情報収集に努め、編成作業を進めて行かなければならないものと考えております。

地方財政を取り巻く環境は、社会保障関係経費の増嵩や地方交付税の別枠加算の廃止など削減圧力が強まる中にありますが、「最少の経費で最大の効果を挙げる」という基本理念の下、町民福祉の向上を図り、町民ニーズに応えることのできるよう効果的な予算編成に努めてまいりたいと考えております。

(福祉灯油の実施)

次に、福祉灯油の実施について申し上げます。

灯油価格が依然として高値傾向を示しておりますことから、低所得者世帯などの生活安定を図るために福祉灯油を実施いたしたいと考え、関連する所要の経費を今定例会に補正予算案として提出したところであります。

本町に住所を有する生活保護の受給世帯と町民税の非課税世帯で65歳以上の高齢者世帯、身体・知的・精神に障がいのある方がいる世帯など、約2,350世帯に前年度から1,000円を増額し7,000円分の幕別町商工会の商品券を給付しようとするものであります。

加えて、本年4月からの消費税率引き上げに伴い、家計への影響が大きな年金生活世帯を支援するため、本年度から、年齢要件を「65歳以上」に引き下げて対象世帯の拡大に取り組んだところであります。

(札内南保育園の新園舎竣工)

次に、札内南保育園の新園舎の竣工について申し上げます。

札幌南保育園は、昨年10月から社会福祉法人池田光寿会において保育事業を運営いただいております。現在、3歳未満児30人、3歳以上児69人、合計99人の児童が通園しております。

民営化されてから引継保育の6か月間を含めて1年2か月が経過いたしました。この間、関係職員の努力や保護者のみなさんのご理解、ご協力のもとで保育所運営は順調に進められているものと考えております。

先般、当法人から、本年3月来、取り組んでいる新園舎の新築工事が11月下旬に竣工し、12月1日から新園舎にて保育事業に取り組む予定であるとの報告をいただきました。

新園舎は、木造平屋建て、延べ床面積1,420.40㎡で、現園舎の2.2倍の規模を有し、特に3歳未満児保育に重点を置いた施設となっておりますことから、当法人においては、来年4月から入園定員を120人に拡大したいとしており、これにより待機児童解消と町内の子育て支援の拡充に繋がるものと期待いたしているところであります。

なお、今後は建設中のプールのほか、現園舎の解体や園庭造成等外構工事などが行われ、来年3月までには新園舎整備事業の全てが完了する予定と伺っております。

(忠類デイサービスセンターの事業移管に係る協議状況)

次に、忠類デイサービスセンターの事業移管に係る協議の状況について申し上げます。

忠類地域では、平成24年4月に社会福祉法人幕別真幸協会が運営する地域密着型介護老人福祉施設「サテライト型ふらっと忠類」が整備されたことにより、介護サービスの充実が図られてまいりました。

平成9年に当時の忠類村が設置いたしました忠類デイサービスセンターは、現在、幕別町社会福祉協議会に委託して事業を行っておりますが、ふらっと忠類とともにデイサービス事業を一体的に運営いただくことにより、在宅介護から介護施設サービスへの一貫した効果的な支援の提供が期待されますことから、来年4月を目途として、

運営を社会福祉法人幕別真幸協会へ移管いたしたく、現在、協議を進めているところであります。

(予約型乗合タクシー古舞線)

予約型乗合タクシー古舞線について申し上げます。

本年7月から試験運行を実施しております西幕別地区における予約型乗合タクシー古舞線は、運行開始当初から多くの方々にご利用をいただいております。

7月は土、日曜日を除く22日間のうち予約を受け運行したのは15日間で、運行率は68.2%、8月は71.4%、9月は100%、10月は81.8%と堅調に推移し、4か月間の平均は80.4%に達し、この間の利用者数は、7月は59人、8月は77人、9月は88人、10月は90人と合計で延べ314人と多くの方々にご利用いただいております。

試験運行は、幕別町地域公共交通確保対策協議会の事業として、来年3月までの期間といたしておりますが、こうした実績に鑑み、町といたしましては、12月に開催される協議会においてご論議をいただき、4月からの本格運行に向けて取り進めてまいりたいと考えております。

(農作物の作況)

次に、本年度の農作物の作況について申し上げます。

本年は、4月下旬の遅霜の後、干ばつ傾向で推移し、6月に若干雨天が続く時期がありました。天候は概ね安定し、小麦を除きましては、全体として平年を上回る作柄となる見込みであります。

主な作物について申し上げますと、小麦は、開花期の天候不順などの影響を受け、反収では約9俵にとどまりましたが、品質や製品歩留りは前年に比べやや上回り、全量が1等を確保したところであります。

馬鈴薯は、植え付け後は干ばつ傾向でありましたが、その後は天候に恵まれ、品質は大玉傾向で、収量は平年を上回る状況にあります。

てん菜は、10月の平均気温、最低気温ともに平年を下回る気温となったことから、糖分の蓄積には好条件となり、糖度は5年ぶりに16%台を確保し、収量は平年を上回る見込みであります。

豆類については、収量、品質とも、平年を上回る良好な状態となっております。

小豆は、収量、品質とも平年を上回っており、金時などの菜豆類は、収穫期の降雨等の影響も最小限にとどまり、収量、品質とも平年並みとなっております。

野菜については、ゆり根と長いもは、平年を上回る収量、品質を見込んでおります。

レタス等の葉物野菜は、若干霜の害を受けたものの全体的には生育は良好で、他産地での品不足により、価格は高値で推移したところであります。

牧草は、1番草、2番草とも干ばつにより収量は平年を下回りましたが、品質については良好な牧草を確保しているところであります。

サイレージ用とうもろこしは、収量、品質ともに平年を大幅に上回る作柄となっております。

農作物全体といたしましては、おおむね順調に推移し、総じて平年を上回る収穫量・品質が確保される見込みであり、生産者のみなさんのご努力をはじめ農協など関係機関のみなさんのご指導の賜物であると改めて敬意を表するものであります。

(公共工事の発注状況)

次に、公共工事の発注状況について申し上げます。

11月末現在での公共工事の発注済額は、14億7,208万円で、発注率にいたしますと87.5%となっており、前年度からの繰越事業を含めて、計画しておりました工事の大部分を発注し終えたところであります。

発注済の工事につきましては、工事の早期完成とともに労災事故の防止など安全管理の徹底を図るとともに、今後の発注工事におきましても、発注条件の整備など安全な工事の遂行に万全を期してまいりたいと考えております。

以上、当面する諸問題等につきまして、ご報告をさせていただきましたが、議員のみなさんには、引き続き町政の執行に対しまして、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、行政報告とさせていただきます。